

『自然と歴史が受け継がれ

100年後も繁栄していくまち』をめざして

～深沢地域の新しいまちづくりビジョン～

平成21年6月

深沢地区事業推進協議会

はじめに

平成 19 年 10 月に深沢地区事業推進協議会が発足しました。深沢地域の中心にある JR 東日本の鎌倉総合車両センター大船工場が平成 18 年度末を以て閉鎖され、いよいよ市有地等を含めた大規模未利用地約 32ha とその周辺の新たな拠点づくりを目指して「土地利用のあり方」や「まちづくりの方向性」等について、約 1 年 6 ヶ月にわたって、検討を重ねてまいりました。

深沢地域の整備については、既に平成 8 年 12 月の「深沢地域の新しいまちづくりの基本計画（案）」や平成 16 年 9 月に策定された「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」などでそれぞれに時点においてまちづくりのあり方やビジョンがまとめられており、過去十数年にわたって市民の関心の的になってきています。

今回の検討では、神奈川県や隣接する藤沢市と協力しながら、東海道線に村岡新駅が実現し、村岡、深沢地区を一つの駅勢圏となることを前提として議論を始めました。

民間企業等の動向なども踏まえつつ、地域の現状と課題を把握しながら、これからのまちの骨格のあり方、空間イメージ、機能や施設のあり方など、幅広い分野について議論をしてまいりました。

また、昨今の、激動する経済社会情勢を踏まえ、民間用地の自由度を確保するための土地利用のあり方やまちづくりの方向性も議論しました。

さらに、今後の面整備ゾーンのまちづくりへの想いを、協議会委員からのメッセージや開発への要望としてまとめられました。

今後は、この提言を深沢の新しいまちづくりにおける市民と民間企業、行政の共通のガイドラインとし、より具体的な計画をまとめていくうえで、反映されることを希望いたします。

翻って、『まちづくり』とは、自分たちが住み、暮らしている場を再認識し、地域に合った、住みやすく、生き生きとした魅力あるものにしていくことです。

いま住んでいる人やこれから住む人々が、生涯ここに住み続けたいと思うような魅力をつくり出すことでもあります。また、自分だけでなく、子供や孫たちにもずっとここに住み続けたいと思わせる魅力ある生活環境をつくり出すことです。そして、他の地域に住んでいる人たちに、このまちを訪れたいと思わせるような魅力をつくり出すことだと考えます。

そのためには、鎌倉らしさや、深沢地域固有の歴史、風土を活かしながら、個性豊かで快適なまちを創る必要があります。

最後に、長期間にわたる各委員のご努力とご協力により、この提言をまとめることができたことを心から感謝申し上げます。

平成 21 年 6 月

深沢地区事業推進協議会

会 長 日 端 康 雄

目 次

はじめに

I 深沢地域の新しいまちづくりをめざして	1
1. 背景と目的.....	1
2. 範囲.....	3
3. 経緯.....	4
4. まちづくり計画の役割と位置づけ.....	6
II 土地利用のあり方	7
1. コンセプト.....	7
2. 基本目標.....	7
3. 基本方針.....	8
4. 土地利用の考え方.....	9
5. 主要な機能と補完する機能.....	10
III まちづくりの方向性	12
1. まちの顔づくり.....	12
2. エコに配慮したまちづくり.....	13
3. 安全・安心なまちの環境づくり.....	13
4. みちづくり.....	14
5. 公園・広場づくり.....	14
6. 街並みづくり.....	15

おわりに

■ 付 録.....	16
------------	----